

發行兼編輯人 川崎文治
印刷所 常盤毎日新聞社

常盤新聞

定部五錢 廣告五錢 印刷費五錢 郵税五錢 送料五十錢 日刊 日曜日休 印刷所 常盤毎日新聞社

刊夕日九月二

萬年瓦

鐵道省 御指定
仙台高等工業學校 試驗證明

萬年瓦工業株式會社
福島縣四倉町
電話三八番

常磐文藝

高月會 (若菜)

川つ應と答へて若菜摘む
歌ひあるき籠忘れたる若菜摘
去年のものながら若菜の色も香も 牛城
若菜あれど式部も見えず 京の原 夢吉
若菜摘め冠る手拭寫生せん 大北
新嫁の摘みし雪間の若菜哉 閑月
野に山にもや〜晴れて若菜つむ 耕願
猫の子も跡つけて來し若菜畑 松堂
若菜供や稱宜が白衣の袖寒し 雪村

和

漆器指物 漆器屋 漆器店

美味で評判の 遠藤パン (有聲座西隣)

移轉急告

平町一丁目 電話四五〇

寄書

「郷土文化」を批評す (二) 無名氏

彼等が理想に於て事業に於ては將しく、日本への者に正しき靈智の兩極より出發したることは明かである。そして單に地方的研究機關及集團の名義上の種類多なる今日、彼の會程眞摯にして然も地方前人の企てに見られなき權威と形態と必要とから其れが少なりと雖現代の根本性に何ものかを寄與せうとしての日本の立派な衰むべき研究會の一種である。

従つて彼等は日本の資賦せうとする前に、苟にも郷土文明を提言する以上、自己の環境より一切を誓願し希求することゝ爲なければならぬ。之を明にする爲には第二卷第一號上に於て地方新聞雜誌業者に果すを前提して、如何に文化事業としての相對義務を闡明したか且つ、郷土握護の爲めに起んとする純正青年に書き送つてをることでも或は郷土主義藝術家へ農民美術製作者へ又は青年團研究に見ても本會の期成像定に檢しても、徹頭徹尾彼等が郷土を主體とした實在性から進まうとしてゐること

是非

粹で上品な履物を御求めの際は 三井履物店

平町二丁目 電話一五六番

「郷土文化」と郷土文化會宣言を概括して性質上より内容を分列する時は大體三形式の要素より成り立つてをる。其の一は近代の文化科學より一は地方史、誌上の審察より、他は儒教學派的實踐修養より功利化せうとしてゐる。

二、發表と其の人々會の中心者と擬せらる植竹源太郎氏が晩年の社會事業として、實踐修養道を今日の頌廢せる郷土青年及現代の後至者に説てゐる(一)

眞に是れ鬼に金棒!

耐火耐震耐久力の絶大なる日本コンクリート鐵網

拔群優秀なる斯界の權威

磐城セメントを推奨す

最も經濟的に然も超越せる無比の良材 (施工説明書を進呈致します)

特約代理店 平町五丁目 久釜屋商店 電話九番一三九番

是非

赤心堂病院 平町電話四七五番

高久病院 平町電話五一三番

松村病院 平町電話一〇七番

内科・胃腸科・婦人科
十二指腸虫病科
花柳病科・光線科

内科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科

内科・外科・花柳病科
耳鼻咽喉科・婦人科

齒科

平町土橋通り 原齒科醫院 電話卅一番

牛ハ利用厚生ノ權化ナリ

馬千里ナレバ牛亦千里 乳ハ保健康食物ノ第一位 肉ハ滋養物中天下無比 一毛一皮人類ヲ裨益スル莫大 牛ヲシテ社會ニ貢獻セシムルハ

三二二三屋 電話三二二三番

青沼醫院

平町城山(舊城跡)三の九 醫學士青沼淡夫 電話四〇三番

入院隨意 皮膚科 小兒科 内科 花柳病科

故サダ儀佛申 執行の際には御 多忙の折にも御 不拘遠路の御香 御參會被下且 御過分の御難 眞を辱ふし難 有奉深謝候拜 趨御厚禮可申 上之處乍畧儀 以紙上御禮申 上候 敬具

大正十四年三月九日 平町長橋町 宗形忠次郎 親戚一同

縣青年總會には 役員選舉が問題

濱通りでは大森氏の 再選を極力運動する

本縣聯合青年團總會は石城郡平町に於て四月十八日頃開催する事に決定した事は既報の如くであるが今回の總會に於て問題となるのは役員選舉であつて會長龜井内務部長は沖繩縣知事に榮轉し目下

欠員中

となつて居り一部には會員より會長を選舉しやうと主張する者もあるが結局長井内務部長に決するらしく副會長は現在平町大森勇、鐘江社會課長の兩氏就任し居り濱通りでは大森氏の再選を運動するは當然であるが中通りでは

應援を

得て合津の伊藤職氏か鈴木周次郎氏を據ぐらしく相當競争が行はれるであらう

小名濱町の 發展策協議

七日大講演會

を開いた
小名濱町最近の狀勢は避難港も完成し漁船の吞吐激しく頓に發展を爲しつつあるが未だに不備の點あつて阻害されること多々あり之がため同町有志等は憂慮に堪はずとして奮起し七月午前十時より小名濱町民を同町小學校に集め町勢の發展策

常磐片々

大瀧發電所問題再燃を傳ふるや激勵狀本社に續々到來る
これを見ても利權派に對する平町民の公憤如何に激烈なるものあるか想像に難からず
○
公共の利害得失を顧慮せず私利私慾を満さんとする町民共通の敵を屠れ、是れ天の聲なり

長橋町にて

納税功勞表

記念品を贈呈
平町長橋町納税組合にては

先生が勉強

平第一校にて

石城郡教育會主催尋常科正教員學力補充講習會は來る三月廿五日から卅一日迄平第一小學校に於て開催女子師範學校教諭蛭田留次郎氏の國語漢文に就いて講義ある由

簡易保險

準備に着手

平郵便局では年未年始の多忙期も漸く終つたので來る十五日から一週間に亘る全國第二回勸導デーを機とし簡易保險の大々的勸誘を行ふべく六月から準備に着手したが昨年度に於ける成績は四月から十二月まで千九百口、二等局として成績見ること多きものあつた

宗像氏寄附

亡妻供養に

平町長橋町柏木酒店宗像忠次郎氏は亡妻供養の爲め本七日午後一時より組合功勞者として左記六名
(管理者)植頭鶴松、小野園次郎、(部長)關内半平、遠藤松之助、松本熊五郎、今宮清吾
を表彰し記念品を贈呈したが先づ區長代理川角兼吉氏の開會の辭に次ぎ來賓伏見助役の納税に就いての演說植頭管理者の答辭あつた由

成績がよい

紀元節に表彰

石城郡における實業補習學校は現在その規定に基きしものが四十九校あり生徒總數約二千五百人に達しこれ

社を通じて平消防組、警城訓官院長橋分團へ夫々十圓宛を寄贈したと

澤渡村雪掃き 石城郡澤渡村にては六日の降雪

卒業式を控いて

寫眞屋は今が大繁昌

毎日三四十人の來客で

眼の廻る忙しさ

寫眞屋の書き入時は一年を通じ正月から三四月にかけて最も忙しいもので所謂寫眞シーズンである各學校の卒業式が目前に迫り生徒が記念撮影や入學願書に添付する寫眞などの注文が山程あつて目の廻る様な忙しさ青木寫眞館主の話に依ると「今閑暇の様な處は四六中忙しいと云ふことはありませぬ、寫眞屋の書き入時は今ですから毎日撮る人々は三四十人は下りませんが、大形物は少いですがキャビネの手札形が一番よく出ます

高岡氏固辭

村長後任に 人選難に陥る

石城郡草野村長新妻西五郎氏は昨年十二月廿七日を以つて満期退職し目下欠員中であるが去る六日村會を召集満場一致を以つて高岡唯一郎氏を推薦した處老齡の故を以つて固辭して止まないのでも人選難に陥つたもの如く第二候補者として同村

石炭代扱帯

女房の逃ぐ



家庭の注意

水戸市谷中折道居住通稱加諸駒次郎事宗戸尚(五)は炭寝言を言はぬ注意
非常に思ひ込んだ時、または非常な情的刺戟を受けた時はなるべく早くそれを忘

調停案同意

入會地問題

石城郡平窪村小川村入會地問題は水野郡長の調停案を平窪側が納得せぬ爲め未だに決しなかつたが其後同村側にも調停案に同意を表す者が多くなつて來た爲め近く入會地に多少の修正を施し解決に至るであらうと

木炭を盗む

數重なつて 遂ま捕はる

石城郡小名濱町字松中日雇業小野米吉(五)は昨年一月中同町小野辰吉より木炭二俵を盗み其他再々窃取せる事發覺六日平署に引致され取調中の由

古貴品展覽會 石城郡玉川小學校にては七日學

募集

文藝其他投稿 を募集します

藝會及び古貴品展覽會を開催し來會者四百名で非常な盛會であつたと

石城 兒童貯金

十四萬一千圓

石城郡内各小學校に於ける大正十三年度十二月末日現在の兒童貯金高は十四萬千七百五十五圓七十一錢で十二年度未現在の十三萬七千八百七圓六十八錢に比すると約一割の増加を示してあるが兒童數は男七千九百九名女五千八百四十五名である

夏井村處女會

石城郡夏井村小學校では八日同

校に於て處女會を開會、山名塾中教諭の講演琵琶の餘興等あり盛會であつたと

公有林競賣

下小川村にて

石城郡下小川村にては基本財産となす爲め公有林五十八反の檜、モミ三千七百石新炭材千五百石を來る十八日競賣に附す事になつたが該木は地方稀に見る大木にて大休二萬圓内外の見込みである